



中部山岳国立公園

高原と山岳の魅力を併せ持つ乗鞍



レンゲツツジ咲く乗鞍高原と残雪の乗鞍岳(6月)



凍結した善五郎の滝(1月)

松本自然環境事務所 アクティブ・レンジャー

木村亜紀

北アルプス、飛騨山脈と言った方がしっくりくる中部山岳国立公園。その最南端に位置する乗鞍地域についてご紹介します。

乗鞍高原は、標高1,500m付近の広々とした草原と森林、そして迫力ある3つの滝で構成されています。小川で水浴び、池の畔でお絵描き、散歩中にカモシカと遭遇、蕎麦を食べて温泉につかった後は、シラカバの木陰で昼寝…。気取らず静かに時間を楽しみ、ピーターに愛されています。そんな環境を維持できるよう、利用者・地元住民・関係機関の方々とコミュニケーションを取り、歩道のメンテナンス、外来植物除去作業、各種啓発活動などを行っています。

一方、乗鞍岳は3,026mの剣ヶ峰を主峰とする山岳地帯。ライチョウや高山植物の大群落で有名な畳平(標高2,702m)は、車道が通じている日本の最高所です。ただし、渋滞の解消や環境保全のため、平成15年からマイカー規制を行っており、バスかタクシーへの乗り換えが必要です。人間のみなならず本来ここにいなかった動植物も侵入しやすく、脆弱な高山特有の生態系を脅かす恐れがあるため、対処や防止の方法を模索しています。

これからの季節は、鮮やかな紅葉とふかふかの雪が楽しみです。凍った滝も見事です。

「これからの季節は、鮮やかな紅葉が楽しみです。」

冬はパウダースノーが名物のスキー場も賑わいますよ。」

FOCUS

福島県 原子力災害

～ 残された動物たち ～



保護された猫

名古屋自然保護官事務所 佐藤祐一

3月11日の東日本大震災で、地震により東日本各地に大きな被害が出ただけでなく、津波によって福島第一原子力発電所が被災し、未曾有の大災害となってしまいました。4月に福島第一原子力発電所の周辺20km圏内は警戒区域とされ、現在も法的に立ち入りが制限されています。環境省は、震災後すぐに被災地の動物救護の対応を開始し、5月から福島県を始めとした地方自治体や動物愛護の団体などと共同で、住民の方が避難するときに取り残されてしまったペットの保護回収作業をしています。住民の方の一時帰宅時に自宅で保護されたペットを回収し、住民の方がまた飼えるようになるまで3年を限度としてシェルターで預かることになりました。

私は7月上旬から2週間、福島の現地災害対策本部支援チームに派遣されました。警戒区域内の話聞いたところ、人がいなくなった街には、やむを得ず残された動物たちがいるとのこと。犬や猫だけではなく、牛、豚、エミューなどがまだ街の中にいます。犬が集団で生活し、群れとなっていてところがあれば、一時帰宅したものの、自宅の前に牛がいて中に入れないということもあるそうです。さらに、夜にパトカーの赤色灯をつけていたら牛の群れに取り囲まれて体当たりされた、という話も耳にしました。

警戒区域とされてから3ヶ月以上が過ぎ、ペットの保護回収活動によって再びペットと出会い涙する住民の皆さんを見たときに、込み上げてくるものがありました。



福島駅付近の垂幕